

山梨県水産技術センター便り

新任のご挨拶

所長 高橋 一孝



このたび三井前所長の後を受けて、水産技術センター所長を拝命いたしました。どうかよろしく願いいたします。公務員の宿命で、私も県内各地を異動してきましたが、これで最後になります。就任後、7年ぶりに現業職員の所内異動を行い、人事を刷新しました。新しい風が吹くことを、期待しているところです。

さて、今年度の予算を見ると、東京電力の電気料金の値上げが決まり、さらに本所3号井戸の大型修繕と、財政的にも厳しい1年になります。職員に対しては今まで以上に省エネ・省コスト化をお願いしてあります。

社会情勢を見ると、1年経っても東日本大震災の復旧・復興は思うように進まず、また放射能汚染問題、円高・不景気、国の借金の拡大といった、先の見えない・不透明な時代にあると言われます。同時に政局も波乱含みで、巷では閉塞感が漂っています。

翻って水産業界はどうでしょうか。ご多分に漏れず、作った養殖魚は売れない、遊漁も不振と似たような状況にあります。こんな状況ではありますが、明るい光明も見えます。クニマスが発見です。ご承知のとおり、70年前に秋田県田沢湖で絶滅したクニマスが、本県の西湖で発見されました。当所でも山梨県総合理工学研究機構の研究テーマとして採択されたのに伴い、衛生環境研究所と共同研究を始めることになりました。本種の増養殖研究と保全に向けて、職員一丸となって取り組む所存です。この仕事は世間の注目度も高く、やりがいのある大きな仕事であります。

この他の研究課題を見ていきますと、湖沼河川漁業の振興では、希少魚保全技術の開発としてホトケドジョウに続き、メダカの生息マップの作成や、平成25年度の漁業権免許更新に向けて漁場の実態把握(富士五湖における漁業実態解明)、カワウ等鳥害対策関係では、擬卵・ドライアイスを利用した駆除を進める一方で、漁業被害の軽減策として食性によるカワウの嗜好調査を行います。資源管理技術の開発では、堰堤スリット化による溪流魚生息環境の改善(国の委託研究)や、河口湖を中心としたワカサギ増殖の基礎調査などを進めます。

一方、養殖漁業の振興では、養殖効率の向上研究(ニシキゴイ稚魚の飼育成績の向上)や、付加価値を付けた販売や消費拡大に繋がるような新養殖魚種開発研究(サケ科魚類の異種間交配魚開発試験、ブドウ搾り粕投与による「甲斐サーモン」の品質向上試験、低魚粉飼料検討開発試験など)に取り組んで参ります。

近隣の水産試験場では、退職者不補充という形で人員削減を図っていると聞きますが、幸いにも本県では新規採用者が配属されるという恵まれた環境にあります。昨今の社会情勢を鑑みると、全体的に窮屈な中でも、新たなやりがいを見つけることが大切です。当然のことながら不要・不急の仕事の精査も必要ですし、同時に、責任を取らない体質、コスト意識の欠如といった負の側面に対しても真摯に反省するなどといった、公務員の意識改革も大いに必要です。

今後とも、関係者皆様のご意見・ご要望を頂戴しながら効率的研究の推進と、研究成果の迅速な普及に向けて、職員一同、力を合わせて取り組んで参ります。皆様方の一層のご支援、ご協力を重ねてお願い申し

上げまして、新任のご挨拶とさせていただきます。

退任のご挨拶

前 水産技術センター所長

現 山梨県漁業協同組合連合会参事

・山梨県養殖漁業協同組合常務理事

三 井 潔

山梨県の甲府市で生まれ、4年間だけ外の空気を吸って、56年間山梨県で生活してきましたが、今年の3月末日をもって、県を退職しました。37年間水産職として勤務できたのは、スタッフ等の周りの支援・協力のおかげと思っています。本所・支所・県庁・水族館と水産が関係するすべての勤務を経験しました。この間、水産技術センターでは、餌料試験・バイテク試験・河川形態の変化に関すること・アユ、コイ、冷水魚生産等いろいろな仕事をしましたが、どれも興味を持って行いました。

水産の仕事は、県にとっても大事な仕事だと考えています。地味でなかなか県民にはその仕事の内容が伝わっていないと思います。今後は、水産技術センターと一緒にアピールしていきたいと思っています。

水産にもいろいろな分野がありますが、一つには、養殖業があげられます。もともと山梨県民は、淡水魚をあまり食べません。昔から「おごっそう」は、マグロの赤身です。その中であって、山梨県のニジマス生産量は全国三位です。淡水魚の消費拡大については、新たな山梨県のブランド魚作りを水産技術センターで行っています。今後の研究成果を大いに期待しています。現在、県と山梨県養殖漁業協同組合では、「甲斐サーモン」を前面に押し出しその消費拡大を図っています。これは、より多くの人に甲斐サーモンの美味しさを知っていただき、淡水魚全体の消費拡大につなげるものです。また、観賞魚のニシキゴイの生産量も大きく、水産技術センターでは、輸出用の衛生証明書の発行を行い、平成18年から約2万尾弱となっています。今後も、泳ぐ宝石・ニシキゴイが国内はもとより輸出産業とし

てますます発展するように願っています。

一つには、湖沼河川漁業があげられます。カワウの食害・河川横断工作物の漁業への影響等の課題があります。カワウ対策については今後も広域な対応が必要です。このため、県と協力しながら継続的な漁業被害軽減対策を実施していく必要があります。また、湖沼河川については、漁場の基礎データの蓄積が必要と思います。

所長時代の後半には、「クニマス」の発見がありました。クニマスの生態については解らないことばかりです。今後の生態解明と増養殖技術の確立に期待をしています。

最後になりますが、長い間、ありがとうございました。今後は、山梨県内水面漁業発展のため微力ではありますが頑張っていきたいと思っています。

皆様の今後のご健康とご活躍を祈念しております。

平成 24 年度全国養鱒技術協議会 魚病対策研究部会からの情報

主任研究員 名倉 盾

平成24年度養鱒技術協議会魚病対策研究部会に5月14・15日に参加してきましたので、その概要をお知らせします。

この部会は、年1回開催され、サケ科魚類の魚病全般に関する、調査研究の発表や事例紹介等が行われる会議です。その中から、サケ科魚類の養殖をしている皆さんにとって関連すると思われる話題をご紹介します。

1 疾病総診断件数

22都道府県の水産試験場が行った疾病の診断件数は、昨年と比較して82.4%に減少しました。これは、ここ5年間でもっとも少ない診断件数です。震災の影響により、東北各県での実績が減ったほか、活魚の流通が減少した結果病気の移動も減り、生産量の減少により、飼

育環境も向上したのではないかと、また一般的な魚病の発生では診断依頼をしなくなってきたのではないかと、減少の理由として推察されています。

2 疾病別診断状況

最も診断件数の多かったのがIHNで、次に多かったのが冷水病でした。IHNと冷水病は混合感染も多く、いまだに悩みの種になっていることが問題視されています。特にIHNは20g以上の診断が51.9%となっており、過去では稚魚の病気だったものがどんどん大型化してきているという現状があります。診断数3位は細菌性エラ病、4位はせつそう病でした。

3 その他

冷水病対策として、受精時の「洗卵」をしっかりするだけでも、親魚に抗生物質を注射して冷水病菌を減少させる方法と同等の効果があることが報告されました。これは、平成22年の養殖技術講習会で皆さんにお知らせした方法です。これを受けて、今年全国的に民間でどのような洗卵が行われているかの調査を実施することとなりました。年末にアンケートを実施させていただくと思いますので、ぜひご協力をお願いします。また、垂直感染を防ぐ洗卵方法については、当時の資料がまだ残っていますので、必要な方は忍野支所名倉までご連絡ください。

魚病対策の基本は、地道な防疫や消毒の実践です。毎日のちょっとした管理が重要ですので、大変ですが気を抜かずに行ってください。

「今年も一斉追い払いが実施されました」

研究員 芦澤晃彦

一斉追い払い結果

カワウ一斉追い払いは今年で7回目を迎えました。平成24年5月8日(火)から同17日(木)までの10日間、11漁協、延べ1000人近くの方が参加して行われました。参加した11漁協のうち、7漁協管内でカワウの

飛来数が減少しました(図)。一方、2漁協管内で一斉追い払い終了後に飛来数が増加しました。原因として、一斉追い払い期間中に今シーズン1回目のアユ放流が行われた漁協管内の方向へカワウが誘引されたためだと考えられます。今年の一斉追い払いの結果からも、カワウはアユの放流に敏感に反応していることがわかりました。

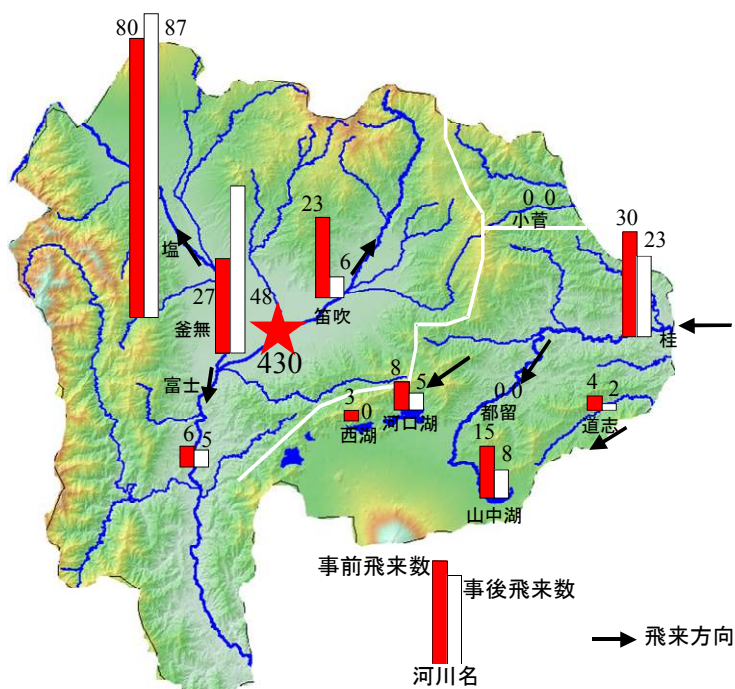


図 追い払い前後での山梨県内各地の飛来数。→は主な飛来方向、星印は県内に1つあるねぐら兼繁殖コロニー(下曾根コロニー:富士川水系)。白線は分水嶺。河川名については「川」を省略。

今後のカワウ対策

県内においては現在、新たにできたカワウの生息地を除去し、下曾根コロニー1箇所へ封じ込めています。ねぐらを除去するためには、早期発見が重要です。今後も生息地を1箇所へ封じ込めるため、各漁協の皆さんには、カワウのパトロールを定期的に行って頂きたいです。夕方、木にとまっているカワウを見つけたら、すぐに水産技術センターまでご連絡ください。

引き続き、時期と場所を限定した追い払いと繁殖抑制を継続し、県内で最新のカワウ情報を共有しながら、効率的な食害防止対策を行っていきましょう。

平成24年度の組織体制

平成24年4月1日付け人事異動で、今年度の体制は次のとおりとなりました。

本 所 (14名)

所 長 高橋 一孝 (昇任)
次 長 河田 順雄
主 査 駒井 泰子 : 総務
主任研究員 岡崎 巧 : 増殖
主任研究員 青柳 敏裕 : 養殖
研 究 員 坪井 潤一 : 増殖-アユ
研 究 員 芦澤 晃彦 : 養殖-カワウ、コイ
技 師 谷沢 弘将 (採用)
主任技能員 大森 洋治 (支所より異動)
臨時職員 小林 伝
臨時職員 岩部 奈津美
臨時職員 吉野 健司
臨時職員 望月 進
臨時職員 深沢 良江

忍野支所 (7名)

支 所 長 大浜 秀規
主任研究員 名倉 盾 (昇任) : 養殖-マス類
研 究 員 加地 奈々 : 希少魚 (水族館)
技 能 員 羽田 幸司 (本所より異動)
非常勤職員 宮内 聡 (採用)
臨時職員 天野 元枝
臨時職員 渡邊 由美子

採 用

技 師 谷沢 弘将
非常勤職員 宮内 聡

退 職

所 長 三井 潔
非常勤職員 植草 信仁

新人自己紹介



谷沢 弘将 26才
山梨県出身
北海道大学水産学部卒
北海道大学大学院博士前期課程修了

今年度より水産技術センターに新採用として配属されました谷沢 弘将 (たにざわ こうしょう) と申します。山梨県で生まれ育ち、幼い頃は山川を駆け回って遊んでいました。愛着のあるこの地で働くことを非常に嬉しく思っています。大学では現場水域の水質や、生産力に関する研究を行って来ました。早く一人前になり山梨県の内水面漁業の発展、水域環境保全のために尽力したいと思います。よろしくお願ひします。

平成24年6月29日発行

本 所

〒400-0121 甲斐市牛匂497
TEL 055-277-4758 FAX 055-277-3049
E-mail : suisan-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

支 所

〒401-0511 南都留郡忍野村忍草3098-1
TEL 0555-84-2029 FAX 0555-84-3707
E-mail : suisan-osn@pref.yamanashi.lg.jp